



# 図書館だより

<2017年 冬号>  
千葉経済大学総合図書館

## 学生ブックツアーの新作本が入りました

- ◆ キリンビール高知支店の奇跡
- ◆ 苦汁 100%
- ◆ AX
- ◆ 22年目の告白
- ◆ そのままでいい
- ◆ 百器徒然袋 雨
- ◆ 失はれる物語
- ◆ はいちーず
- ◆ ぼく、仮面ライダーになる！  
-エグゼイド編



(全 36 冊)

## <新着おすすめコーナー>



(カウンター前)



(児童室)

\* 毎月新着本が並びます。  
是非チェックしてください！

とはいえ、降っている雨を傘で防ぐことはできても、雨を降らせないことはできないのであるから、人に振る舞いをさせないことは難しい。であれば、意識的に他人の課題に踏み込まず、踏み込ませない。もちろん課題の分離は入り口であって、人間関係の断絶は意味しない。人はアドバイザーにはなれるけれど、他人の人生を横取りできない。どんなに困難な人間関係であっても、対人関係のカードは、自分が握っているのである。アドラーの著作は、非常に示唆に富んでいるのだが、日々の些事に紛れて忘れてしまう。しかし、小倉氏の著書は、100の言葉にまとめられ、繰り返し見ていくことができる。アドラーのシンプルなテーゼに背中を押してもらえらるだろう。

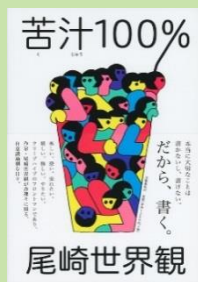
『アルフレッド・アドラー 人生に革命が起きる100の言葉』  
(経営学科 佐藤 典子准教授)  
小倉広 著

心理学者アルフレッド・アドラー。昨今の日本でも『嫌われる勇氣』などの著者で知られている。彼の掲げる「課題の分離」という概念は、今問題となっている、親離れ子離れできない共依存的な人間関係を一掃する力を備えている。「うちの子、勉強しないんです」は、「親の課題」ではなく、「その子自身の課題」で、勉強しない結果を引き受けるべきは、親ではなく、子である。「親はこの仕事に就けていうけど、自分はやりたくないんです」は、親が「子どもの課題」に踏み込んできている典型的な例だ。自分がやりたくない仕事であれば、それが社会的にどんなに素晴らしいと言われていても、親孝行をしたくても、そこは踏み込ませない。



先生が選んだおすすめの一冊





『苦汁100%』 尾崎世界観 著

(経済学科三年 瀧澤 真彩)

私がおすすめするのは、ロックバンド「クリープハイプ」のフロントマンである尾崎世界観の書籍『苦汁100%』です。筆者の日々の小言が日記形式で書かれており非常に読みやすいですが、一つの言葉は考えさせられるものばかりです。筆者の特徴でもある遠回しで分かりづらく捻くれた書き方はむしろ、言葉にしにくい心のドキドキやモヤモヤをダイレクトに表現してくれています。

「本当に大切なことは書かないし、書けない。だから、書く」というこの本の中の言葉が私は特に気に入っています。まさに日記は自分の一番素直な気持ちを吐き出す場所であり、大切な気持ちも恥ずかしい自分も全部さらけ出してしまいうから本来ならば誰にも見せたくないものです。大切な気持ちなんて、外に出して誰かに見られたらなくなってしまうのではないだろうか。

全て吐き出された赤裸々なこの本を読んだことで、他の人にも嫌な部分があつて当たり前だし、自分の嫌な部分も受け止めてあげるべきなのだなと、すっきりとした気持ちになりました。自分をちょっと楽にしてあげられる一冊です。



『学ばない探偵たちの学園』 東川篤哉 著

(ビジネスライフ学科一年 石田 架夜)

『学ばない探偵たちの学園』は、「鯉ヶ窪学園探偵部シリーズ」の第一作目である。このシリーズの外編である『放課後はミステリーとともに』では、映像化もされている。

この小説は、冒頭の部分から読者を笑わせてくる、ギャグとユーモアが混在した本格ミステリー小説である。一つ一つの事件が短編で描かれているので、とても読みやすい作品かと思われる。

物語の始まりは、今作の主人公である赤坂通が、二年生の春に恋ヶ窪のはずれにある架空の高校「鯉ヶ窪学園」に転校し、当初「文芸部」に入部するつもりだったが、なぜか探偵部に入ることになってしまったところから始まる。

この小説の一番の魅力は、登場人物たちのユーモアあふれる会話の中に、トリックのヒントがちりばめられており、様々な技法を使って読者を欺くところである。読後「騙された！」と思う人もいるかもしれない。

このシリーズは、メインとなる人物が変わるのも面白さの一つである。探偵部の個性豊かな人たちの活躍を、ぜひ見届けていただきたい。

## 2017年貸出ランキング (2017.01.01~2017.12.31)

### 一般図書

1. コーヒーが冷めないうちに
1. これが本当のSPI3だ!
1. サービス企業原価計算論
4. TOEIC L&R test 出る単特急 金のフレーズ
4. 企業価値創造の管理会計
4. 人を動かす

同じ貸出回数が多く、同率 1 位と同率 4 位となりました。

### 絵本

1. おないにだれだ
2. 三びきのやぎのからがらどん
3. あおくとときいろちゃん
4. かぼくん
5. にんじんとごぼうとだいこん



課題での貸出が多く、トップ5は同じものが3・4冊ずつあるものが占めています。

### 雑誌

1. 数学セミナー
2. フレジデント
3. 週刊東洋経済
4. 数理科学
5. 会計人コース



数学系の雑誌が1位と4位になりました。そのほかに経済分野の雑誌も多く貸し出されました。